

講義コード	1116530003
講義名称	心理学B　03<秋>
科目英文名	Psychology B
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0PSY2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
中村　隆行

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	この授業では、「現代の心を取りまく課題と心理的支援」について概説する。 教育や臨床の場面では、さまざまな心の問題に対処するため、心理学理論を応用して研究開発された「心理的支援」に関する理論と技法が利用されている。現代の心の問題と心理的支援の実際について、「現代の心を取りまく課題」「日常生活と心の問題」「心理学的アセスメント」「カウンセリングと心理療法」の観点から基礎的知見と研究成果を概観し、現状と課題および展望について考察する。
学習（到達）目標	・現代の心を取りまく課題と心理的支援の実際について理解している。 ・日常生活と心の健康との関係を理解している。 ・心理学理論と心理的支援の技法を応用して、さまざまな心の問題を探究し適切な対応策を考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：現代の心の問題と心理的支援
第2回	現代の心を取りまく課題①：脳と心
第3回	現代の心を取りまく課題②：アタッチメントの形成とその障害
第4回	現代の心を取りまく課題③：発達障害
第5回	現代の心を取りまく課題④：発達障害児への教育的支援
第6回	現代の心を取りまく課題⑤：児童虐待問題とその対策
第7回	日常生活と心の問題①：ストレスとメンタルヘルス
第8回	日常生活と心の問題②：心理病理と精神疾患
第9回	心理学的アセスメント①：アセスメントの基本的考え方
第10回	心理学的アセスメント②：アセスメントの実際
第11回	カウンセリングと心理療法①：カウンセリングの理論と技法
第12回	カウンセリングと心理療法②：精神分析療法
第13回	カウンセリングと心理療法③：行動療法
第14回	心理的支援の課題と展望
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	小テストを10回行い、その中央値で評価する
---------------	-----------------------

参考文献	・加藤伸司・山口利勝（編著）『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』 ミネルヴァ書房 ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣アルマ
事前および事後学習の指示	・毎回講義終了後、その回の重要事項復習ようとして確認問題を配布する。次回講義まで必ず仕上げておくこと。 ・講義で学習したことが、日常生活でどのように応用できるか考えてみること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：心理学）02～19生読替☆SW・SD生は履修不可

講義コード	14D6820000
講義名称	アジア産業論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Asian Industry Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2665
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
江川　暁夫

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①	実務経験のある教員による授業②
		アジアで経済担当の外交官の経験を踏まえた授業内容	経済官庁でアジア経済分析や対アジア経済協力等を経験した者による実践的な授業内容

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。
	コメントシート 小レポート/小テスト

講義・演習概要	本講義では、アジア（特にASEAN）各国の産業構造が、各国内の経済政策・産業政策によってどのように影響を受け、各国が産業発展上の問題点の克服に向け、どのような取組を行ってきた（また、行っていくべきか）を、理論と実例を交えながら考える。また、近い将来に目を向け、日本の政府・企業が、今後のアジア各国の産業発展においてどのような役割を担っていけるのかを考える。 具体的には、講義の前半は、(1)アジアの主要国での産業構造転換と当該国での政策との関係を概観した上で、(2)各国で政策を推進する上での政府の体制について考える。後半は、(3)最近の日系企業の対ASEAN進出戦略に係るトピックを紹介する。 なお、本講義の中で必要となる理論やモデルは、「準備学習の指示」の項で述べられているものを除き、授業の中であわせて解説する。
学習（到達）目標	(1)アジアの産業発展は段階的に進んできたが、その時々でふさわしい経済成長戦略を策定し実施できた国が成長を速められたということ及びその産業構造転換において日本の企業がどのように影響力を持ってきたかを理解し、日本のあるべき対アジア経済政策について議論できるようになる。 (2)日本の企業の進出戦略が、従前とは異なる形でアジア諸国の産業構造を規定する可能性があることを理解し、上記(1)に関して更に様々な視点から企業戦略を議論できるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	アジアのこれまでの産業構造転換と経済発展の概観
第2回	ASEANの中所得国・低所得国が世界を魅了している産業とその理由
第3回	ASEANの高位中所得国・高所得国が抱える産業発展上の課題／政府の「使命」と産業発展
第4回	産業構造の転換と政策①：低所得国時代の輸入代替工業化政策
第5回	産業構造の転換と政策②：輸入代替工業化から輸出志向工業化への転換
第6回	産業構造の転換と政策③：中所得国のASEANにおける輸出志向工業化後の産業構造転換
第7回	産業構造の転換と政策④：アジア型の産業革命と高所得国化（シンガポールの経験）
第8回	中間まとめ：産業発展段階ごとに必要となる産業と、その構築方策の整理
第9回	「4.0」産業への道筋：シンガポールの先例と「ASEAN 4IR」に向けた取り組み
第10回	産業発展と「開発体制」
第11回	「開発体制」と「政府の質」と「計画」
第12回	日本企業の対ASEAN直接投資の歴史
第13回	日本企業のアジア全域での産業展開：R C E P、連結性の高まり、中国の対一路構想
第14回	ASEANでのSDGs実現への取組と新たな産業形成（BCG経済）
第15回	まとめ：ASEANは日本のサプライチェーンから日本と共存するパートナーへ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	15%
レポート	69%
その他	16%

成績評価の方法（コメント）	（１）試験は、定期試験が実施されないため、試験と同等の内容の出題を短期間で解くもので代替し、最終回の講義時に出題する。この提出がなかった場合は、「試験未受験」と同等として扱う（すなわち、単位付与はなされない）。 （２）レポートの５９点については、①授業後課題（８回程度、配点３４％）、②毎回の授業の途中ないし終了時に数分程度の小クイズに取り組み、その点数をレポート点として付加（配点２０％）、③１，３００字程度のレポートが１本（配点１５％）。 （３）上記（２）②への解答をもって、授業に積極的に臨む取組の表明とみなし、その他点を適宜配分する。 （４）公欠や病欠、就職活動を理由とする欠席の場合は、大学ないし就職活動先が発行する何らかの書類を提示した場合に限り、その他点について配慮する。 （５）人工知能（ＡＩ）については、効果的に用いることを学生には慫慂する。したがって、ＡＩを用いてよい課題と用いてはいけない課題を明確に分け、ＡＩ使用禁止の課題でＡＩを使用した場合は、その後の課題等に対して一切の配点をしないこともあり得る。
---------------	--

参考文献	『アジア経済読本』第４版 渡辺利夫編 東洋経済新報社 『開発経済学入門』第３版 渡辺利夫著 東洋経済新報社 『国際政治経済学入門』第３版 野村健他著 有斐閣アルマ 『新興アジア経済論－キャッチアップを超えて』 末廣昭著 岩波書店 ※いずれも、具体的な参照頁については、講義の中で紹介する。
事前および事後学習の指示	事前学習：日頃、新聞の経済欄や経済関係の社説等を読み、経済の議論においてよく用いられている語句についての理解を心がけるとともに、初歩的なミクロ・マクロ経済学は理解できるようにしておくこと。また、学生諸君が各自関心を持っている職種・分野における日本企業とアジアとの関わりについて、日頃、新聞等でチェックするとよい。 事後学習：授業に出て講義資料に書き込んでいくだけでは理解できない点も多くなることが考えられる。そのため、授業の中で強調された用語や理論を、事後に十分に確認しておくことが望まれる。
学習時間	事前学習時間：３０時間 事後学習時間：３０時間
備考(管理者用)	（旧：経済学特講－アジア産業論Ⅱ）０２～１３Ｅ・CBCC生読替

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	90%
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	レポートでは、授業内で扱った理論を用いて、自身の趣味を考察してもらおうと考えています。 常に自分の趣味と具体的に照らし合わせながら講義を聞くことをお勧めします。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	長崎励朗	偏愛的ポピュラー音楽 の知識社会学: 楽しい音楽の語り方	学生独自購入	4422701258	創元社	必ずしも購入を義務づけるものではありません。

参考文献	講義内で適宜紹介する。
事前および事後学習の指示	・テキストを事前に読み込んでおくこと ・講義内に登場した文献は興味に応じててにとってみること。 ・同じく、講義内に登場した本以外のコンテンツにも触れてみること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	音楽、メディア、場所、都市

講義コード	16D1310000
講義名称	税法B　＜秋＞
科目英文名	Tax Law B
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW2570
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
浦東　久男

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	企業課税についての基本原則を理解する。国際税法の基礎的概念を理解する。法人税法の概要を講義により学んだ後、国際税法を学ぶ。
学習（到達）目標	・租税法法律主義の内容と意義を理解する。 ・法人税法を学び、会社法を中心とする企業法と税法の関係を理解する。 ・国際税法の基礎的概念、考え方を学ぶことにより、国家の課税権のあり方を考える。 ・会計学、財政学、公共経済学を学んでいる学生は、税法・国際税法とそれらの科目の関連性を考える。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	導入　授業計画の説明　わが国の税制を概観する ・税財政の状況 ・税法と他の科目（法分野）との関係 ・法人税の特徴 ・所得税との相違点 ・租税法の法源（法律・政令などの国内税法と租税条約） ・租税法の基本原則（租税法法律主義）
第2回	租税法の解釈適用の基礎 企業課税の特徴 ・国税としての法人税と地方税としての法人事業税
第3回	法人税と所得税との関係　～法人段階の課税と株主段階の課税、二重課税論～
第4回	法人税法における法人の種類　～同族会社に対する課税～
第5回	法人税法と企業会計　～法人税法22条と企業会計原則～ 法人税法における益金　～受取配当、資産の評価益～
第6回	法人税法における損金（１）　～売上原価、減価償却など～
第7回	法人税法における損金（２）　～役員給与、交際費、寄付金～
第8回	国際課税（１）国家の課税管轄権について ・無制限納税義務者と制限納税義務者　～居住者と非居住者、内国法人と外国法人～ ・国内源泉所得に対する課税（その１）
第9回	国際課税（２）国外の納税者に対する課税 ・国内源泉所得に対する課税（その２） ・恒久的施設と課税所得の範囲
第10回	国際課税（３）国内の納税者に対する課税 ・国際的二重課税と外国税額控除

第11回	国際課税（４）外国の子会社に関する課税 ・受取配当益金不算入 ・外国子会社合算課税（タックスヘイブン税制）
第12回	国際課税（５）国内租税法と租税条約の関係 ・国内法と条約の関係 ・OECDモデル租税条約 ・日本が締結した租税条約について
第13回	国際課税（６）租税条約が定める課税 ・OECDモデル条約が定める各所得の課税
第14回	国際課税（７）移転価格税制と国際的租税回避 ・移転価格税制と独立企業間価格 ・タックスヘイブンと情報交換
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	30%
その他	70%

成績評価の方法（コメント）	（１）M-Portを通じて実施する小テスト（３回程度実施予定） （２）レポート（その１）：次の課題について、1000字程度で説明しなさい。 課題「法人税法２２条２項が定める無償による役務の提供と収益認識」 提出期限：１２月２５日頃 （３）レポート（その２）：次の課題について、1000字程度で説明しなさい。 課題「内国法人と外国法人の区分の基準について」 提出期限：２月３日頃 レポート（２回分）と（その他）をあわせて成績評価を行う。 提出期限は、２０２６年１１月中にM-portにおいて通知します。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
１．	ハツ尾順一	図説・租税法ノート （第16訂版）	大学オンライン 販売	9784433739263	清文社	
２．	村井正編著	入門国際租税法（改訂版）	大学オンライン 販売	978-4433738709	清文社	改訂が予定されている

参考文献	１ 岡村忠生・酒井貴子・田中昌国著『租税法（第5版）』（有斐閣） ２ 末光大毅編著『図説日本の税制令和六年度版』（財経詳報社） ３ 木村浩之著『租税条約入門』（中央経済社） ４ 中里実・佐藤英明・増井良啓編『租税判例百選〔第7版〕』（有斐閣）
事前および事後学習の指示	教科書によって、前回までの講義内容の復習をすること。授業中に出题される質問に対する解答を自分で考えて、自分のノートに記録すること。授業中に小テストを例題として実施するが、成績評価には含めない。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	法人税 法人税法 企業会計 国際課税 国際税法 租税条約
備考(管理者用)	（旧：税法Ⅱ）02～07生読替

講義コード	1787500000
講義名称	アジア文化研究-韓国・朝鮮文化B　＜秋＞
科目英文名	Study of Asian Cultures-Korean Culture B
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2490
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
青野　正明

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	近年、日本と韓国との交流が様々な分野で盛んになってきた。その一方で、現代にまで続く歴史的な問題が原因で政治的には安定しない状態がまだ続いている。そこで、この授業では日本の地から現代韓国を知り理解することを目指して、異文化理解に重点を置きながら、伝統的な文化やそれらの変容について全般的に概説していく。 具体的には、言語・風俗・衣服・料理などの諸項目について、パワーポイントを用いて視聴覚資料を多用しながら講義する。そして、奥深い韓国・朝鮮文化のダイープな部分まで可能な限り理解していく。
学習（到達）目標	知らないことが多い隣国の文化を知ることは重要である。そして異文化の特質を見つけて理解するための視点や分析方法も学んでいく。その過程で、韓国・朝鮮文化の面白さを自分なりに見出しながら、各回で学ぶ基本的な知識を修得する。そして、文化交流や多文化共生について自分の考えをもち、文化のコミュニケーション力を身に付けることを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義の流れや成績評価等の説明
第2回	言語 1（言語のルーツと漢字文化圏）
第3回	言語 2（ハングルの構造と特徴、外来語）
第4回	宗教 1（巫俗、韓国ドラマを観る視点①）
第5回	宗教 2（仏教・儒教、韓国ドラマを観る視点②）
第6回	宗教 3（キリスト教・新宗教、韓国にキリスト教信者が多い理由、旧統一教会の問題）
第7回	集落と住居 1（住居における儒教・風水の要素）
第8回	集落と住居 2（集落における風水の要素）
第9回	風俗 1（年中行事：正月、村祭り、秋夕）
第10回	風俗 2（葬法の変遷、陰暦行事の意義）
第11回	料理と酒 1（焼肉文化：日韓の比較）
第12回	料理と酒 2（キムチの特徴、焼酒、他の料理）
第13回	舞踊・演劇（農楽⇒サムルノリ⇒N A N T A、仮面劇）
第14回	衣服（韓服と和服の起源と比較）
第15回	音楽（「アリラン」いろいろ、映画「アリラン」、アイドルグループが海外公演で歌う「アリラン」）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	「その他」は毎回の課題テストと受講態度の評価である。 許可なく携帯電話を使用すると大幅に減点する。 また、授業に出席することは当然であるため、出席が11回以上の者を成績評価の対象とする。
---------------	--

参考文献	配布プリント 金岡基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社 他にも必要に応じて授業で紹介する。
事前および 事後学習の 指示	たとえば、言語１・２のように連続する分野は、それぞれのつながりに留意して、その分野を総体的に理解する。また、事前学習では各回のテーマについて図書館やインターネット（適切なサイトを選ぶ）で調べておき、事後学習では各回の配布プリントをよく読み、掲載された関連サイトや資料にも目を通しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理 者用)	（旧：アジア文化研究－韓国・朝鮮文化）02～10E・06～10CBCC・02～17L生読替

講義コード	17N5330000
講義名称	日本語教育事情　＜秋＞
科目英文名	Japanese Language Education in Globalizing World
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	LAED1410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
島　千尋

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業① 日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある現役日本語教師が経験の中で得た具体的な実例を交えつつ日本語教育を多方面から解説する
------	----	------------	--

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	1．日本にいる外国人や日本語を学んでいる学習者について 2．学習者から見た日本語について 3．日本語の教え方について 4．日本語を教える「日本語教師」という仕事について 5．日本在住の外国人や学習者を取り巻く環境について 以上の点に関する基礎的な知識を学びます。
学習（到達）目標	日本語教育に関わる様々な事柄についての基礎的な知識を身につけることで、日本語教育というものの全体像を把握する。また、これからの日本社会や世界の中で自分たちと共存していくこととなる外国人との接点を見出す。

講義・演習計画

回	内容
第1回	・オリエンテーション ・初めの一歩　～日本語教育の世界をのぞいてみよう～
第2回	1．日本にいる外国人や日本語を学んでいる学習者について（1）　～外国と日本との相違点～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（1）世界と日本の社会と文化　（7）世界と日本の日本語教育事情　を含む）
第3回	1．日本にいる外国人や日本語を学んでいる学習者について（2）　～外国と日本との共通点・多文化共生～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（3）多文化共生　（13）多言語・多文化主義　（32）異文化間教育　を含む）
第4回	2．学習者から見た日本語について（1）　～文字～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（41）日本語教育のための文字・表記　を含む）
第5回	2．学習者から見た日本語について（2）　～発音・語彙～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（40）日本語教育のための音韻・音声体系　（42）日本語教育のための形態・語彙体系（44）日本語教育のための意味体系　を含む）
第6回	2．学習者から見た日本語について（3）　～文法～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（43）日本語教育のための文法体系　を含む）
第7回	2．学習者から見た日本語について（4）　～使い方～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（10）コミュニケーションストラテジー　（11）待遇・敬意表現　（45）日本語教育のための語用論的規範　を含む）
第8回	3．日本語の教え方について（1）　～初級文法の教え方　―「初級」とは―　～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（6）日本語の試験　を含む）
第9回	3．日本語の教え方について（2）　～初級文法の教え方　―教え方の実際―　～

第10回	3. 日本語の教え方について（3） ～日本語を教える際の留意点～
第11回	3. 日本語の教え方について（4） ～「やさしい日本語」～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（33）異文化コミュニケーション を含む）
第12回	4. 日本語を教える「日本語教師」という仕事について（1） ～日本語教師になるには～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（5）言語政策 を含む）
第13回	4. 日本語を教える「日本語教師」という仕事について（2） ～日本語教師の仕事とやりがい～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（20）日本語教師の資質・能力 を含む）
第14回	5. 日本在住の外国人や学習者を取り巻く環境について（1） ～在留資格～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（2）日本の在留外国人施策 を含む）
第15回	5. 日本在住の外国人や学習者を取り巻く環境について（2） ～日本で働く外国人の現状・在住外国人への接し方～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（18）異文化受容・適応 を含む）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	85%
その他	15%

成績評価の方法（コメント）	・出席は取りませんが、その日の授業内容に基づいて、ほぼ毎回小テストを出します。授業資料をM-Portに上げるのは小テストの提出期限後ですので、授業を聞いていないと小テストができません。授業には毎回必ず出席してください。もちろん、ただ出席しているだけで出席点が加味されるということはありません。 ・周りの人とおしゃべりをする事、断りなく途中退室することは厳禁とします。どうしても退室しなければならない場合は、講義中でも構いませんので教員に許可を取ってください。 ・交通機関遅延などによる遅刻を除き、授業開始45分後以降は入室できないものとします。連絡がない限り教室には入れませんので十分注意してください。 ・「レポート」は、①学期中に時々課す課題（全3回）（30％） ②学期途中で行う留学生／日本人学生へのインタビューの結果報告（15％） ③学期末に課す最終課題（40％） の3つです。 ・「その他」はほぼ毎回課す小テスト（15％）です。 ・授業中に質問への解答のためにスマートフォンを使用してもらう場合があります。 ★日本語や日本語教育に興味・関心がある人、将来のために外国人との関わり方について知りたい人はどうぞ受講してください。
---------------	--

事前および事後学習の指示	・授業で使用したパワーポイントをM-Portに上げますので、それを見て復習してください。 ・学内の留学生と積極的に関わり、話をして、視野を広げてください。 ・外国人学習者向けの様々な日本語教科書が図書館にあるので、見てください。 ・授業に関連のあるテーマについて、ニュースを見たりインターネットの記事や書籍を読んだりして、関心を持つようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	日本語、外国人、日本語学習者、日本語教育、日本語教師、登録日本語教員（国家資格）
備考(管理者用)	（旧：学科特殊講義－日本語教育事情）02～18L生読替☆（旧：共通自由特別講義－日本語教育事情）E・CBCC・SS・SW・J04～18生読替

<社会人の方へ>授業内でQRコードを読みこんでGoogle formに答えていただくため、スマートフォンの使用をお願いする場合があります。

講義コード	1C02410000
講義名称	歴史学 [2] - フランス近代史　＜秋＞
科目英文名	History-Modern history of France
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	HIST1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
豆原　啓介

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	1789年に勃発したフランス革命の結果、フランスでは王政が廃され、共和国が誕生した。しかしながら、その後のフランスの政治体制および社会秩序は安定からは程遠いものであった。19世紀のフランス史は、ナポレオン戦争とその敗北、王政復古、七月革命と二月革命、ルイ・ナポレオンによるクーデターと第三帝政の開始、普仏戦争、パリ・コミューンの成立と挫折、第三共和政の成立と、数多のドラマティックな政治的事件に彩られている。換言すれば、革命の理念が受容され、社会秩序が安定するまでには、相応の時間が必要であった。この講義では、高校世界史の教科書では年号と事項の列挙に過ぎない近代フランス史について紐解きながら、それぞれの政治的事件が発生した背景には、いかなる歴史的要因が存在し、また、その帰結には、いかなる歴史的意義が存在するのか、読み解いていく。政治史のみならず、同時代の経済史や文化史にも目配りしながら、講義を進めていく。（和泉市近隣の文化施設にて一回、学外実習を行う可能性がある。その場合の交通費は、履修者の負担となる）
学習（到達）目標	・近代におけるフランス史の流れを、因果関係を理解しながら、把握すること。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	映画「マリー・アントワネット」鑑賞
第2回	アンシャン・レジームの社会構造
第3回	フランス革命の勃発
第4回	フランス革命の進展と成果
第5回	恐怖政治とナポレオンの台頭
第6回	ナポレオン戦争の敗北と王政復古
第7回	二月革命から七月革命へ
第8回	前半の復習と中間試験
第9回	ルイ・ナポレオンのクーデターと第三帝政の開始
第10回	第三帝政下におけるパリ大改造とフランス経済
第11回	普仏戦争とパリ・コミューン
第12回	第三共和政とジュール・フェリー
第13回	ヨーロッパにおける奴隷貿易と奴隷制廃止
第14回	後半の復習
第15回	まとめと期末試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	試験：中間試験 20% 期末試験 70% その他は、コメントカードなどの提出を指す
---------------	--

事前および事後学習の指示	事前学習は特に必要としないが、学習事項が多岐にわたるので、授業後の復習は怠らないこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：共通教養特別講義－フランス近代史) 16～19生読替

講義コード	1C26050000
講義名称	自然科学入門－生き物を守る　＜秋＞
科目英文名	Introduction to Natural Science-Conservation Biology
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	NUSC1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
巖　圭介

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	人間は常に自然の恵みにより生かされてきた。しかし人間が節度を忘れてひたすら効率的に自然から収奪するようになった結果、多くの生物がすでに滅び、また今滅びようとしている。現在、地球始まって以来最大のペースで生物が絶滅しつつあるといわれている。守るべき自然、守るべき生物はどこにいるのか、なにが彼らを滅ぼそうとしているのか、そして私たちは何をすればいいのか。 この講義では、人間にとっての生き物の価値を改めて示し、生物保全の基礎を事例をふまえながら紹介していく。この地球に存在する多くの生物が人間にとってどのような意味を持ち、なぜ私たちは彼らを守らねばならないのかということを考える機会としてもらいたい。
学習（到達）目標	・人間にとって生き物たちはどのような意味を持つのか説明できる ・生き物たちが滅びる原因とその主な対策を説明できる

講義・演習計画

回	内 容
第1回	なぜ生き物を守るのか 絶滅の現状
第2回	生物絶滅の歴史
第3回	生き物が滅びる理由
第4回	森林の価値
第5回	失われる熱帯雨林
第6回	失われる里山
第7回	ウエットランドの価値
第8回	ウエットランドの危機
第9回	ウエットランドとしての水田
第10回	外来種の脅威
第11回	外来種との戦い
第12回	人間による乱獲
第13回	生物資源の管理と保全
第14回	生態系をよみがえらせる 最終確認テスト
第15回	最終テスト解説と授業ふり返り

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	毎回の受講を確認するための小テストや小課題への回答と、最終確認テストを合わせて評価する。その他コメントや情報提供についてはボーナスポイントを付与する。
---------------	---

参考文献	必要に応じて授業中に示す
事前および事後学習の指示	授業では板書の負担を軽減するため穴埋めプリントを配付するが、その穴を埋めるだけではなく、講義を聞きながらノートを取り、配付資料の内容と授業後に統合して整理することで、はじめて十分な理解ができるはずなので、次の授業までにきちんと復習をすること。また翌週のテーマに関連して出す課題について自分で調べておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	環境問題、生物保全、絶滅
備考(管理者用)	（旧：共通教養特別講義-生き物を守る）14～19生読替